

平成 18 年度第 2 回山形県立博物館協議会 記録

平成 19 年 2 月 13 日 (火) 午後 1 時 30 分～3 時 45 分

於：山形県立博物館 講堂

1 開 会

2 あいさつ

3 報告

(1) 平成 18 年度主要事業の進捗状況について (阿部副館長が説明)

【日野委員】 博物館業務の総括で「ボランティア活動」の項に「解説ボランティアではないのに解説をお願いしなければならない」という記載があるが、どういう意味か。また、交通費・昼食の支給はどのようになっているか。

【阿部副館長】 当館では入館者の誘導、案内、体験コーナーでの対応などについてのボランティアをお願いしており、解説をお願いしているのではない。解説をお願いするのであれば、さらに研修を充実する必要がある。しかし、実際は解説もお願いしているのが現実である。交通費、昼食に関してはボランティアの性格上、不要だという意見がある一方で、昼食や交通費がなくなるのなら続けられないというボランティアもいる。現在は昼食・交通費を支給しており、次年度もその予算は要求している。

【野口比委員】 事業についての評価の項目が細部にわたって、分かりやすく良い。このなかで調査・研究に関する評価が低いことについて説明してほしい。

【阿部副館長】 調査・研究に関する予算が無く、調査に出かけることができないことや、各部門 1 人体制と少ないことで研究を深められない。十分な研究ができない不満から低い自己評価となっている。

【安部委員】 文部科学省の研究補助制度などの活用は考えられないか。

【阿部副館長】 ボランティア活動を促進させるようなものや人文系、自然系それぞれの研究を補助するものがある。年度末の 2 月頃に募集が来るものが多く、こちらの現状に合わないことが多く使いにくい。

【安部委員】 申請はしているのか。

【阿部副館長】 実際に申請はしていない。利用する方向で検討は行っている。

【元木会長】 全国の県立美術館でも科研費をもらえるところは十館程度と少なく、難しいのが現実である。民間企業が行っている助成は科研費に比べると少ないが、探せばいろいろあるので探してみてもどうか。

【安部委員】 致道博物館ではなにか補助金を利用しているか。

【酒井委員】 「子ども教室」に関する助成のみで、研究に関するものは利用して

いない。

- 【安部委員】 私のところでも「子ども教室」の助成を受けていたが、書類の提出などが面倒なのでやめた。
- 【元木会長】 文化庁の助成は翌年度に入金するので立て替え払いができないとダメで利用しにくい。書類提出などの労力も増えるため、労力に見合ったものかどうか検討が必要。
- 【酒井委員】 県の財政が厳しい中で多くの事業を行っていることを評価したい。収蔵庫の確保という問題についてはどのようなになっているのか。
- 【阿部副館長】 別の場所を探しているが、建物であれば何でもよいというわけではないので、現在のところ適当なところは見つかっていない。今年度荷受け室や一時収蔵庫を整理する作業をして多少スペースができたが、館内は満杯で根本的な解決にはなっていない。
- 【教育やまがた振興課長】 置ければよいというものでもないのが難しい。組織の改編などで庁舎に空き部屋が出てくる可能性があり、その活用について働きかけていかなければならないと考えている。
- 【六車委員】 ボランティアは解説ボランティアではないということだが、実際はどのような活動を行っているのか。
- 【阿部副館長】 小学生のグループの案内・誘導などをしながら実際には解説をお願いしている。また体験ひろばでの補助や施設の案内などもしてもらっている。
- 【六車委員】 「ばんどり」を使ったことがある人に話をしてもらおうなど、それぞれのボランティアの個性を活かしたことはできないのか。学芸員の説明以上に、具体的な経験からの解説には深みがある。常設展でも各分野について詳しい人を活用したらよいのではないのか。ボランティアの位置づけについてよくわからないところがあるが、地元の人をもっと活用できるのではないのか。
- 【阿部副館長】 今後のボランティア独自の事業の場などで個人の能力を活用していくような方向で検討していきたい。
- 【安達委員】 予算や人員が限られている中でよくやっていると思うが、早急に解決できるのではないかと思うことがある。七小前から県博に入ってくるころの看板が目立たないうえに「右折できませんので、迂回してください」と表示してあるが、市外や県外から来た人はどこを迂回したらよいのかわからない。もっと分かりやすい表示に改善できないか。また、東大手門付近の看板設置などは低予算でできるだろうから、できるところからやってほしい。
- 【元木会長】 以上の件について検討してほしい。

(2) 県立博物館活性化事業の経過について (齋藤教育やまがた振興課長より報告)

17・18年度で博物館活性化事業として活性化委員会からの報告書による提案や、協議会委員と活性化検討委員との合同検討会などで助言を得て策定した案

が、県体育館の存続問題や学校等の耐震対策など周辺状況の変化のために、県の財政事情が一層厳しくなって19年度予算化ができなかった。現在の施設のまゝ運営していくうえでの緊急の課題について、できるところから実現を図っていきたい。

【酒井委員】 山形城の復元の進捗状況はどうなっているのか。

【教育やまがた振興課長】 平成35年までは完成させたいとのことなので、それまでには博物館も移転しなければならない。

【酒井委員】 山形市側の工事などは予定通り進んでいるのか。

【教育やまがた振興課長】 予定通り進んでいると思う。

【野口一委員】 県立体育館の耐震性についてはどのようになっているのか。

【教育やまがた振興課長】 体育館の耐震化に関しての設計予算は平成19年度に計上されたと聞いている。

【安達委員】 学校の耐震化は地域住民の避難場所の役割からも重要だと聞いている。耐震診断や工事に多くの費用がかかり、市町村も苦慮しているので、その辺の事情はよくわかる。博物館にまで予算がまわってこない事情は理解できるが。

【野口一委員】 当初、体育館の存続問題に耐震工事は考慮に入っていなかったが、高額な対策費用をかけても体育館を存続させるのか。

【教育やまがた振興課長】 存続させる前提で話は進んでいる。

【元木会長】 博物館の耐震性はどのようになっているのか。

【高橋副館長】 調査は済んで、まだ正式な報告を受けていないが、構造上問題はないようだと言っている。

【元木会長】 アスベストはどうなっているか。

【高橋副館長】 当館でも展示室に吹付アスベストが使用されているが、展示室としての内天井があるため、「措置済」とされている。しかし、万全を期するため平成18年の3～4月に臨時休館して空調設備改善工事を行い、完了している。

【元木会長】 施設の修繕について緊急性のあるものというのは具体的にどこか。

【高橋副館長】 35年経過し、到るところで老朽化が進んでいる。冷暖房のボイラー主機については更新したが、ポンプや配管などはもとのままである。また、トイレの手洗い用の水は飲料には不適であり、館内には雨漏りがしているところもある。バリアフリーについても早急に対策が必要である。

【野口一委員】 県のホームページで博物館の外のタイルの劣化が問題視されていたがどうなったのか。

【教育やまがた振興課長】 常任委員会でもこのことについて話が出た。緊急性の高いものからやっていかなければならない。

【野口比呂美委員】 これで終わりというのではなく、できるところから少しずつでもやっていってもらいたい。展示改装問題の総括と評価の中に、予算化されず徒労感だけが残ったとある。活性化に向けてのいろいろな問題が明らかになっ

たと前向きに考え、今後これらの問題の解決を目指して進んでほしい。

(3) 開館日の変更について (高橋副館長が説明)

4 協議事項

(1) 平成 19 年度の運営方針・事業計画について

(1～3まで松浦館長が説明し、4以降については阿部副館長が説明)

【日野委員】 先日、数年前にリニューアルした秋田県立博物館を紹介しているテレビ番組を見た。遊学館では、県人文庫として先人の歩みを紹介しているが、秋田では先覚記念室として紹介してあった。秋田のように大掛かりなリニューアルはできないとしても、常設展の改装は少しずつでもよいので進めてもらいたい。

当方の財団では青少年対策事業の予算が削減される中で代替りの事業で補うなどの様々な工夫を行い、何とか事業枠を確保している。

博物館でも来年度は展示会を今年度よりも多く計画するという事は、効果があり大変結構なことである。ボランティアには、わからないところは学芸員に聞くなどして、解説をもっとしてもらってもよいのではないか。文翔館の職員からは、文翔館と企画展を共催する話が進められていると聞いている。お互い協調して行くことが望ましい。

【野口一委員】 20年前に私がここに在籍したときは資料購入費があったし、調査研究もできていた。当時と比べると予算の厳しい中で、今の学芸員たちはよくやっているのではないかと思う。

歴史担当の学芸員がいないなかで、基本方針にある「情報センター」という表現はどうかと思うが、情報センターであるからには調査研究ができるようにしてほしい。

主管課と連絡会を設けるとのことだが、中長期的な展望をもって県立博物館のあるべき姿について話合ってもらいたい。あちこちで指定管理者化の動きが進むが、博物館には県民に開かれた情報センターであるという視点をしっかりもって話し合ってもらいたい。

天童市では若松寺の落書きを調査する計画があるが、この調査には県博の学芸員も参加してもらいたいと話合っている。県の予算だけでは大きな展示会の開催は難しくなっている。今後は外部と共催するなどの新たな方向性を考えるべきであり、次年度以降も模索してほしい。県博の存在を高めるためにも外部との連携は大切であり、「若松寺」展の開催は、そのような連携に関してよい試みになるのではないか。

【野口比委員】 ボランティアの養成に熱心に取り組んでいると思うが、養成講座などは他の機関と連携して行うことで、ここの職員の負担を軽減することができるのではないか。

- 【永瀬委員】 少ない予算の中で努力を続けている様子がかがえる。入館者を多くしていくことに協力をしていきたい。入館者が増えると行政側を動かす力になる。入館者が減っているという現在のような厳しい状況で山形の文化施設はどうなってしまうのか不安になってしまう。県博の来年度計画は各学校にどう浸透させるのか。
- 【館長】 野口(一)委員からのご指摘の通り学芸員の調査研究をもっと充実させていかなければならないと思う。学校への情報提供については来週から市内の小中学校を訪問し、来年度の事業内容を説明しながら、博物館利用について働きかけたいと考えている。
- 【阿部副館長】 事業計画の印刷は3月末になるが、とりあえず概略の予定表をもって小学校を訪問したいと考えている。
- 【永瀬委員】 入館者をふやす試みについて良いアドバイスがある。詳しいことは後ほど阿部副館長にお話したい。
- 【安部委員】 若松寺の開山1300年については、地元の天童市では4年前から準備してきている。天童市の方は観光の面でがんばり、こちらでは博物館ならではの学術的な展示となるように努力してもらいたい。
- ナナビーズで自分の収蔵資料をもとに「私のお雛さま展」を18日まで行っている。この展示会を通して、一般の人は手作りのもの(細工)に興味を持っていると感じた。なにか博物館のヒントになるようなものがあるかもしれないのでご案内する。もし必要があれば私のコレクションを貸してもいい。
- 【野口一委員】 「山形の雛街道」は最近活況を呈しているが、はじめて取り上げたときには県博も牽引車となった。
- 【六車委員】 博物館や大学にとって調査研究はいわば心臓部ともいえる重要なもので、調査研究がおろそかになると博物館全体のレベルが下がってしまう。20年度からの、地域を総合的に取り上げた特別展は大変興味深い。ぜひ4地区を、その後には総括展と長期的計画で取り組んでほしい。私個人だけでなく、大学やセンターのレベルでの連携もできるかもしれない。展示やセミナーにももう少し啓発的なものを取り入れ、全国に向けて情報を発信したらどうか。たとえば環境問題の例として、焼き畑は国内でも少なくなっているが庄内地方を中心に行われており、展示などに取り上げて面白いのではないか。中長期的な展望で参考にしてもらえればと思う。
- 【酒井委員】 庄内から来ると、ここの博物館の場所はわかりにくい。ここにいたる導線を分かりやすく表示してほしい。せっかく山形城の中にあるのだから、これからどのようになっていくかも含めた、城の復元模型を展示するなど身近な話題が活用できる。この件で文化庁や山形市と連携していけば面白いのではないか。
- 【元木会長】 県博で発行している研究誌の部数が100部というのはあまりに少なすぎる。少なくとも千部は必要。これぐらいの部数があるといろいろな人の

目に触れるようになり、内容についての批判等も出てくるだろう。そのような批判に耐えられるようなものを出版してほしい。

ボランティアを教育するために仕事量を増やすよりは、様々な能力をもった人をボランティアにお願いするようにして、学芸員自身ももう少し出歩いて、いろいろな所との連携とその利活用を探って行かなければならない。来年度の行事は充実しており楽しみだが、再来年度もこれを持続できることを望む。

(閉 会)